

# 研 究 紀 要

## 美 術 工 芸 部 会

テーマ 「人とまちを育む、みんなの美術館～美術教育に今できること～」

|           |                                                                                                     |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実践発表 1    | 「美術教育における掲示板の可能性」<br>青森県立八戸北高等学校 得 丸 文 野…………… 1                                                     |
| 実践発表 2    | 「描かれたものから読み取る美術鑑賞」<br>青森県立十和田工業高等学校 三 村 紗瑛子…………… 3                                                  |
| 報告 1      | 「令和 4 年度高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会より」<br>青森県立弘前工業高等学校 坂 本 憲 史…………… 5                                       |
| 報告 2      | 「八戸市美術館『学校連携プロジェクト』活動報告」<br>青森県立八戸北高等学校 得 丸 文 野…………… 6<br>青森県立八戸東高等学校 清 野 恵<br>青森県立八戸工業高等学校 宮 本 紘 子 |
| 講演会       | 「第四世代の美術館 八戸市美術館のとりくみ」<br>八戸市美術館 館長 佐 藤 慎 也…………… 7                                                  |
| 部 会 の 動 き | …………… 9                                                                                             |
| 研 究 テ ー マ | …………… 1 0                                                                                           |

紀要編集委員 益 山 里 奈（青森県立青森東高等学校）

令 和 4 年 度

青 森 県 高 等 学 校 教 育 研 究 会

# 美術工芸部会

## テーマ『人とまちを育む、みんなの美術館～美術教育に今できること～』

### 実践発表 1

### 「美術教育における掲示板の可能性」

発表者 青森県立八戸北高等学校 得 丸 文 野

#### 1 プロローグ「私のレキシ」

今年度で退職ということで、発表者に選ばれた。美術工芸部会で一番の年上の教師ということで、自分より、若い教師たちにどんな発表をしたら彼らを元気づけ、勇気づけられるのか考えてみた。コロナ禍で、高教研や高総文の時の講演の講師の先生方を囲んでの情報交換会も無くなり、美術教師同志で気軽に悩みや相談をする場がますます減っている。きっと、このままでは、互いにどんな人間でどんな美術教育をしているのか、知らないまま部会を去ることになるのだろう。そこで、思い切って自己開示をすることにした。自分の教師としての38年間の歴史を、失敗談を、その時々年代における悩みをパワーポイントのスライド形式で作り、音楽をつけ、動画にしてプロローグとして発表することにした。自分がいかに何も知らない若いマヌケな教師だったか、学級崩壊などの失敗、教師哲学の甘かったこと、中学校教師から高校教師への転身、突然の単身赴任、病気、親が倒れるなど、さまざまな人生において皆がつきあたるだろう諸問題とその解決方法。美術教師である前に、人間であり、そんな情けない人間でも、前を向いているうちはどんな問題が起きても大丈夫で、60歳まで教師を無事勤めることができるのだと、伝えることをプロローグに置いた。

#### 2 本題「美術教育における掲示板の可能性」

美術は週2単位の授業だ。毎日、授業がある英語や数学に比べて、圧倒的に時間が少ない。時間が少ないということは生徒と向き合う時間も、指導時間も、作業時間も短いということである。それを掲示板で補えるのではないか？という提案である。

##### ① 北高プチ美術館、開館。

美術準備室の掃除をしたら、教科書会社から送られてくる沢山のポスターを発見。勿体ない気がして貼っていなかったが、これを生徒に見せずしてどうする？そうだ、掲示板に「北高プチ美術館」として、毎週、入れ替わり立ち代わり掲示しよう！始めたときは一週間に一度の掲示の入れ替えを目標にしていたが、生徒は忙しく通り過ぎていくことを考えれば、一か月とかもっと長いスパンでもいい気がしてきた。美術室の前に移動して、ずっと貼ったままにしているものもある。とにかく、生徒に美術的な美しいものを見せることが目標である。美術館自体がずっとそこにあるように、長い間、しかし、美術作品に触れる掲示はいいと感じた。反対に沢山あった、マグリットの絵を「一期一絵」として、毎日、学年の掲示板に張り替えることを思いついた。



##### ② 自分のアートを発見する課題。

生徒に自由に好きなものを描いてくる宿題を出している。生徒は2週間に一度、なんでも描きたいものを描いてくる。この作品も、いい作品、面白い作品、よい探究など、教師の心に響いたものを、定期的に貼っている。始めた時は、大きな掲示板に定期的に貼り替えていたが、最近は階段の踊り場にある掲示板の片隅を借りて、「今日の一枚」として、毎日貼り替えている。一日では少し勿体ない気がするので、1年→2年→3年→大きな掲示板にまとめて集約という風に、校内の場所を移動していく貼り方にした。毎日1～2枚ということで、作品に、何が良いのか、教師のコメントもつけた。生徒は登校時、移動教室、下校時に、よく見ているようだ。掲示することで、モチベーションもあがり、関連した作品を描いてくるようになる。この宿題は、美術の予習復習になっている。美術の家庭学習が、授業のスキルもあげていく。嬉しい効果が出た。進学校で、勉強に追い立てられる傾向にあるので、みなに流行っているアニメやアーティストなど、鑑賞者にとっても、ホッと和むきっかけになっている。プチ美術館と逆で、毎日変わること、生徒の目を集めていると感じる。

### ③勉強した内容をポスターで！

いつも、②の作品を貼っているコーナーに、色の勉強をした後で、色についてのポスターを作って貼った。人気の漫画キャラクターを使って、色の持つ性格を一週間交代で貼りだした。生徒が②で掲示板を見る習慣がついているとしたら、この色のポスターも見ると考えたからだ。するとこのポスターは復習の内容になり、生徒の知識が知恵と変わって覚えてくれれば良いと考えている。毎日通って見る何気ない階段の踊り場の掲示板が、美術の時間を補うことになるのではないかとこの時から考え始めた。

### ④読書ポスターを読書のきっかけに

担当する分掌が図書だったので、美術教師らしく、得意のポスターで、読書人口を増やすことができるのではないかと考えた。毎週、作って、手を変え品を変え、ポスターを作ってみた。こういうことは続けることが大事である。生徒は図書館が何かを活発にやっているな…何か面白そう、じゃ、ちょっと行ってみるか！と思ってくれれば良い。結果として本を借りる人が増えたかと言えば、あまり効果はなかったようだ。

### ⑤黒板アートを受験生が担当

卒業式の保護者控室の黒板アートを例年、美術部が引き受けていた。大概、「卒業おめでとうございます」という言葉とめでたそうな桜の木。ステレオタイプだ。今年、探究美術という科目が開設されたが、その中の一人が「先生、私、自分のクラスの黒板アートを描いて、親に見せたいです！」と言った。今まで、受験生が受験で忙しい時に彼らに黒板アートを描かせるという発想がまるでなかったが、そうか！と目からウロコが落ちた。1 クラスを受験生が描くのだから、すべてのクラスでできないだろうか。受験生に負担がかからぬようにアイデアだけ考えてもらって、製作は美術部が全面バックアップする。各クラスの美術選択者の顔ぶれを見てみると、不思議なことに各クラスにできそうな生徒が一人はおり、受験の合格が早く決まったものもいた。声をかけるとトントン拍子に事は運び、例年とは全く違った黒板アートが出来上がった。彼らの考えたデザインと言葉が深いものであった。自分たちのクラスの歩みを担任の飼っているウサギで表現したもの、親が大好きな漫画をデザインして「ありがとう」のシンプルな文字。「今までありがとうございました。今度は色んな色を知り、自分で描いていきます」という言葉。卒業生の言葉だから、それぞれに深い。また、卒業式後も一週間消さずに、美術選択者で黒板アートツアーをした。美術館で授業をしたいいつも思っていたが、その時は、北高自体が、6 枚の大きな本物の絵を抱えた美術館のように感じた。絵の解説の後、スマホ使用可で、「黒板アート」と自分たちを撮る、という授業に笑いが絶えなかった。



### ⑥カフェのような図書室

図書館の利用者を増やすために、利用が少ないとぼやかれていた1年次の生徒達（美術選択者）に「どのような図書室だったらもっと利用するのか？」とアンケートを取ったところ、生徒の意見で一番多かったのが、カフェのような音楽の流れる図書室、というものだった。それは、面白いね！と図書部で色々な意見を出し合って、常にジャズを流したり、ソファを運び込んだり机の前に勉強に有効な青の色のポスターを貼ったり、お洒落な色とりどりの額を置いて、「好きな色の額を目の前に置いて勉強しよう！」と掲示したり、大きな8つのテーブルには花を活着て飾った。学校という無機質な空間を、豊かで美しく、カフェのような空間に生まれ変わらせられたら面白い。学校の図書室がカフェのように快適でもいいじゃないか。これも発想の転換である。生徒には、概ね好評で、図書室に足を運ぶ教員も増えた気がするのには良かったと考えている。

### ⑦美術教師という武器

バスケ部の爽やかな女の子に「先生、美術部ってなんかカッコいいですね」と、言われた。「どこが？」「ほら、バスケ部と違って、普通の部活じゃないですか。美術部って、特別な技能を持った人の集まりっていうか…」その考えに驚いたが、彼女のクラスメートに美術部の大黒柱の2人がいた。彼らの絵のうまさ、情熱、取り組み、といったら、端で見ていて、カッコ良いのである。卒業式の黒板アートの手伝いから始まって、入学生を迎える入学生歓迎黒板アート、文化祭の看板づくり、毎週の美術部のコラボの課題、体育祭の軍旗づくりと、彼らの八面六臂の活躍を見ていたら、美術部という普段は地味な存在の部活がカッコよく見えても不思議はない。生徒も自分も、どこか、美術部は裏方的な存在だと思っている節がある。そうしてみると、私も美術教師の存在を学校の主要教科とは関係のない存在だと卑下してきたかもしれない。

高教研の発表をまとめているうちに、何をやっても美術教師のセンスが光る自分の仕事を見て、そうか、20代のマスケな自分が、この仕事を続けられたのは、自分の武器は美術教師であることだったか、と今さらながら、気が付いた次第だ。美術教師のみなさん、美術教師のセンスの良さはりっぱな武器になります。

## 実践発表2

### 「描かれたものから読み取る美術鑑賞」

発表者 青森県立十和田工業高等学校 三 村 紗瑛子

#### 1 はじめに

##### a 実践の目標

現行の学習指導要領によると、美術Iの目標は、次のように設定されている。

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

これを受け、年度初めの授業と最後の授業で、「芸術ではお腹は膨れないけれど、自分のものの見方を変えたり、深めたりしてくれる。政治家のような世界の変え方はできないけれど、社会のなかの意識や価値観を少しずつ変えたり、生活するなかでの心地よさや楽しさを作り出すことができる。」と話し、ものの見方を豊かにすることを日々の実践の中で育みたい力として、中心に据えている。

##### b 実践の実態

しかし、昨年度までの実践を振り返ると、私自身も含めて、以下のような実態があり、目標と大きくかけ離れていることに気づいた。

授業者：生徒の発言を引き出したり、まとめたりすることに苦手意識があり、一方的な鑑賞の授業になってしまっている。

生徒：自分の意見に自信がないため、発言が少なく、消極的になってしまう傾向がある。また、発言しても一問一答になってしまい深まりや広がりが見られない。

したがって、今年度は、自分の意見や感想を発言することに重点を置かず、作品を比較することで違いや共通点を発見し、それについて話し合う対話型の鑑賞授業を計画した。

## 2 実践の記録

### 1 時間目 鑑賞の視点を与える

クイズ形式で、auの三太郎や昔話の絵本の表紙を見せ、人物の名前や物語を判別させ、その根拠を問う。持ち物や衣服が分かると作品の主題（人物や物語）が分かることに気づかせ、西洋絵画にも同じことが言えることを伝える。特に、西洋美術において、伝説上・歴史上の人物または神話上の神と関連付けられた持ち物は、アトリビュートと呼ばれ、その物の持ち主を特定する役割を果たしていることを押さえる。

### 2 時間目 ジグソー学習①～赤青黄の専門家グループの活動～（資料1）

生徒同士の対話を促すため、ジグソー学習という方法を採用した。まず、赤（アダムとイブの物語）、青（受胎告知）、黄（アポロンとダフネ）の3つの専門家グループに分け、それぞれの班で、アトリビュートを探させる。その後、グループ毎に物語が書かれた資料を配付し、要約文をワークシートに記入させる。次時では、今の活動をその他のグループの人に伝える場面があるため、一人一人が理解していないといけないことに留意させる。

### 3 時間目 ジグソー学習②～知識をシェアするグループ活動～（資料2）

赤、青、黄の専門家グループから1人ずつ集め、3人1組のシェアグループを編成する。作品を見せながら、アトリビュートや物語の内容について、ワークシートを元に発表させ合う。その際、メモをしたり、質問したりしながら、理解を深めることに留意させる。最後に、まとめの活動として、今回取り上げていない西洋絵画を全員に見せ、配付した



アトリビュート早見表から作品の名前を当てるクイズをした。

### 3 実践の成果と課題

#### 成果

- ① ジグソー学習を取り入れたことで、全員が一つの作品について説明することができた。
- ② 活発な話し合い活動を展開することができた。
- ③ 西洋絵画への関心を高めることができた。

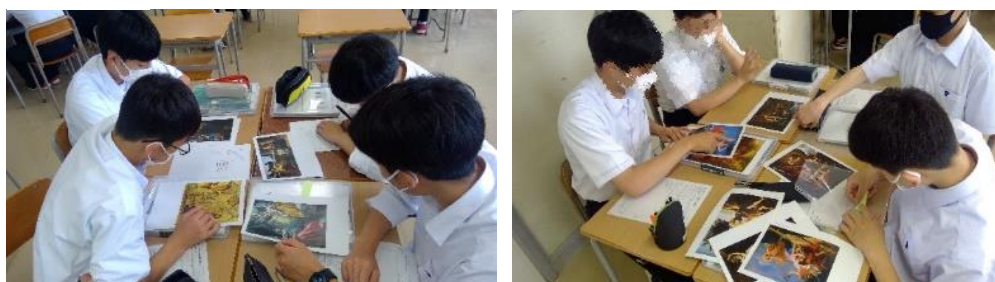
#### 課題

- ① 同じ主題でも、様々な表現があるということを、もっと掘り下げて鑑賞する時間を設けたかった。
- ② 聖書とギリシャ神話について、混同してしまう生徒が多かった。
- ③ 物語の要約を考えることが難しく、写して書く単純な手作業になってしまう生徒もいた。
- ④ この鑑賞授業で学んだことを作品制作に生かせるような授業も考えたい。

#### 改善方法

- ① 3時間目に、全員に複数の同主題の作品を見せて、表現の違いに注目させる。
- ② 聖書や神話について、1時間目に説明する時間を設ける。
- ③ 文章を読ませるだけでなく、動画を見せるなど、理解しやすい工夫を取り入れ、4コマ漫画で表すなど、別のまとめ方にする。
- ④ コラージュで3つの主題の作品を作ることや、アトリビュートを入れた絵を描いて意味があるように見える作品を作ることにも取り組ませる。

#### 資料1



2時間目：ジグソー学習①～赤青黄の専門家グループの活動～

#### 資料2



3時間目：ジグソー学習②～知識をシェアするグループ活動～

## 報告 1

# 「令和4年度高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会より」

報告者 青森県立弘前工業高等学校 坂 本 憲 史

## I 行政説明（平 田 朝 一 教科調査官）

### 1 芸術科（美術）改訂の要点

今回の改訂で美術はその目標において、「何を学ぶ科目なのか」が明示された。美術は、「造形的な見方・考え方を働かせて美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する」科目である。

### 2 美術 I の目標

（1）「対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める」とは、知識に関わる目標であり、新設された〔共通事項〕の指導によりその実現が図られるものである。「意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる」とは、技能に関する指導内容によりその実現が図られるものである。「主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり」とは、発想や構想に関する指導内容によりその実現が図られるものである。「価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深め」とは、鑑賞の指導内容によりその実現が図られるものである。鑑賞の指導に際しては、一人ひとりの見方、感じ方を大切にしたい指導を心がけていただきたい。

### 3 造形的な見方・考え方

「造形的な見方・考え方」とは、対象を「造形的な視点」で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことである。「造形的な視点」とは、造形の要素に着目してその働きを捉える「森の中の木を見る視点」と、全体に着目してイメージを捉える「森を見る視点」のことである。

### 4 「主題を生成」とは

主題は「感じ取ったことや考えたこと」「目的や条件」「映像メディアの特性」などから、「自分は何を表したいのか、何をつくりたいのか、どういう思いで表現しようとしているのか」など、強く表したいことを心の中に思い描くことであり、創造的な発想や構想の学習を進める上で基盤となるものである。この基盤は、表現と鑑賞、両領域の関わりの中で形成されていくものである。

### 5 内容の取扱い

（1）「A表現」及び「B鑑賞」相互の関連を図ること。例えば、表現活動の中で気付いたことがきっかけとなって、美術館の作品や友達作品への見方が深まったり、逆に鑑賞活動で気付いたことをきっかけに主題が生成されたり、新たな表現方法を思いつくこともある。

### 6 〔共通事項〕

〔共通事項〕とは、造形的な視点を豊かにするための「知識」を示すものとして新設されたものである。その指導にあたっては、中学校美術科の学習指導要領「指導計画の作成と内容の取扱い」が参考になるので是非確認して頂きたい。そのうえで、木を見る視点と森を見る視点、一人ひとりの多様な視点を言語活動を通じて指導して頂きたい。

### 7 授業改善

題材や内容のまとまりを見通して深い学びの実現を図るようにしていただきたい。例えば、生徒が自身の変容を自覚できる場面をどこに設定するのか、対話によって自分の考えを広めたり深めたりする場面をどこに設定するのか、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるのかを考えていただきたい。

### 8 学習評価

生徒の学習や教師の指導を改善するものとして学習評価を捉えていただきたい。知識を評価するのであれば、生きて働く知識として理解しているかどうかを評価する必要がある。「主体的に学習に取り組む態度」を評価するのであれば、表現活動においては、生徒が試行錯誤を繰り返して粘り強く取り組んでいる様子を見取っていく必要がある。鑑賞活動においては、生徒が造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしていたり、考えようとしている様子を見取って評価する必要がある。いずれにしても、生徒一人ひとりの変化を見取ることが大切である。

## II 研究協議（各都道府県代表者）

いずれの県からも、学習指導要領の理念を全教員で共有することの難しさが報告された。そのうえで、参加しやすい研修会の工夫や、WEBや冊子で情報の共有化を図る取り組みなどが報告された。また、ICTの活用が自己目的化することへの懸念や、生徒の主体的な学習態度をどのように評価すべきなのか、といった意見が交わされた。

## 報告 2

### 「八戸市美術館『学校連携プロジェクト』活動報告」

#### 1 「小中高同じテーマで作品づくり・クロッキー会・小中高合同鑑賞会」 青森県立八戸北高等学校 得丸 文野

テーマは「こころ」という抽象的なもの。材料は新聞紙やマスキングテープ、色々な画材を使って、学校ごとに制作。最後の鑑賞会だけ、小中高が合同で、リーダーは高校生が務めた。のびやかで素直な小学生の作品、造形が多彩な中学生の作品、学校生活の息苦しさや心の裏表など複雑になる高校生の作品。司会を務めた高校生は大活躍。いい役割を頂いて、生徒の良い経験になった。また、八戸工業高校と合同でクロッキー会を実施。休日に学校を出て、美術館という場での新鮮な部活。各校の美術部員同志が知り会ったり、会話することは全くないので、互いに作業や発表をするのは良い企画と感じた。さらにクロッキー会の午後で開催されたお茶会会議において、小中高で参加できるメンバーだけで馬場のぼる鑑賞会をするか、という話が出てきた。去年のような綿密な計画も準備もないが、なんとなくできるのでは？と鑑賞会を夏休みに実行。美術館という場を得て、数々の経験を経て、学校連携プロジェクトのチーム内での距離がこれからますます近くなっていく予感にワクワクしている。



#### 2 「大きな絵」 青森県立八戸東高等学校 清野 恵

【作業】 令和3年8月3日 【展示】 8月8日(日)、10月1日～3日(日)  
【場所】 八戸市美術館(ジャイアントルーム)  
【サイズ】 縦10.8m、横5.4m

八戸市内の小・中学校4校から、事前に木の「実」の部分になる絵を約100枚(イカ、ウミネコ、八幡馬など郷土への思いを感じる作品)を募り、共同制作作業は、41人の美術部員(市内の中・高1校ずつ)で木を描き、背景の着色と「実」を針で絵に縫い付ける作業をした。八戸市美術館のシンボルマークが木の根元に描かれている。支持体には建物外壁を覆う際に使うメッシュシート9枚をつなぎあわせて使用し、アクリル絵の具で着色。新型コロナウイルス感染防止対策として作業エリアは左右半分に分けた。(計画当初は校種を超えて小・中・高の児童・生徒が交流しながら行う巨大絵画の共同制作であった)

およそ半日かけて完成し、絵を吊したときに参加生徒から歓声があがった。



#### 3 「美術館新聞部」 青森県立八戸工業高等学校 宮本 紘子

美術館新聞部は、新聞づくりを通し、八戸の文化芸術や地域の魅力に親しむことを目的に活動を開始した。初年度の活動は、八戸工業高校美術部員および八戸市立江南小学校6年生の計7名で取り組んだ。

創刊号となる「とれたて!すまあ〜と」第一号では、八戸市美術館館長・佐藤慎也氏や、同館のロゴマークデザインを担当した加藤賢策氏らに、新聞部員の小学生・高校生が実際にインタビューを行い、記事を作成した。また、新聞の題名や記事の見出し、イラスト制作までを新聞部員が行い、校種を越えた協働から生まれたアイデアが詰まった一枚となった。参加した生徒からは、「また美術館に行ってみたい」「八戸の美術で活躍している人に、インタビューをしてみたい」という声が聞かれ、新聞づくりが、美術に親しむきっかけになったと感じている。今後も美術館新聞部の活動を継続し、美術や八戸の魅力を市民に発信していけるよう、児童生徒とともに取り組んでいきたい。



## 「第四世代の美術館 八戸市美術館のとりくみ」

八戸市美術館 館長 佐藤 慎也

### 1 建築について

建築は完成に至るまでに、模型や平面図の作製など綿密な設計を経て施工される。建築士という資格がある一方で、「建築家」という言葉には明確な定義がない。「建築をつくる＝建築家」のイメージが強いが、実際には設計者は意匠設計、構造設計、設備設計の分野ごとに設計を行っている。一般的な「建築家」のイメージに近いものは意匠設計である。

建築の仕事は設計が中心となるが、設計の前段階として、何をつくるかという企画が存在する。大学のカリキュラムでは「設計・計画」「構造」「環境」に大きく分けられる。また、建築の設計は社会的・文化的な要素が含まれることから、工学系の大学であっても建築史を学ぶのが特徴である。建築史はローマ時代までさかのぼることができる。建築家ウィトルウィウスが提唱した「強・用・美」の考えでは、建築の要素は「強（耐久性、構造理論）」「用（機能性、計画理論）」「美（芸術性、造形理論）」に大きく分かれる。



### 2 建築計画とは何か

建築物は竣工後に必ず目的・役割に基づいて利用される。建築計画とは実際に使用されている場面に赴き、どのように使われているかを調査・評価するものであり、「使われ方研究」とも呼ばれる。調査結果を次につくる同様の建築物においてどのように活かすかを考え、設計のための条件を整える役割を持つ。

自著の「舞台芸術制作における公共ホール併設練習室の利用と計画に関する研究」は、舞台芸術における稽古場や練習室がどのように使われているのかについて調査・研究を行ったものである。市民にとってホールとは鑑賞のためだけの場所であったが、90年代から創造型ホールと呼ばれるものが台頭した。上演が行われるのは数日であるが、そこに至るまでの膨大な練習や稽古を行うための場所と、上演のための場所を合わせてつくる必要性が唱えられたからである。

### 3 美術館の歴史

美術館誕生の前にミュージアム（博物館）がつくられた。元々、美術品と呼ばれるものは宗教的な目的で制作され、壁画のように建築物と一体であるため、その場に行かなければ鑑賞することができなかった。その後、額に入った作品が主流となることで、場所に囚われず持ち運びができるようになった。有力者にとって収集がしやすくなったことで、それらを見せるためのギャラリーが誕生した。そして民主化の流れを経て、一般の市民も見ることができる公立の美術館が誕生した。

美術館を世代に分けて論じたのは建築家の磯崎新であり、次のように分類した。

#### （1）第一世代

額縁の中にある具象的・写実的な絵画を展示するための美術館を指す。壁一面に絵が飾られる傾向がある。また、壁の色は赤や緑などがあり、白い壁はほとんど見られない。しかしこの時代の絵画作品は額縁によって中と外が完全に分けられているので影響はなく、壁の役割はむしろ美術館の空間としての華やかさを優先していた。

【建築例】ルーヴル美術館、ナショナルギャラリー

#### （2）第二世代

抽象絵画などといった「もの」としての作品が増えた時代の実験美術館を指す。抽象絵画において額縁の存在が希薄になったことから、ホワイトキューブと呼ばれる作品に影響を与えにくい白い壁の展示室がつくられるようになった。絵を点々と展示するような今日の美術館に近い在り方が生まれ、この様式は現在でも普及し続けている。

【建築例】ニューヨーク近代美術館、ポンピドゥー・センター

#### （3）第三世代

第三世代の実験美術館は1970年代からの美術の変化に対応している。その頃の美術では、ランドアートやインスタレーション、サイト・スペシフィックといった、アーティスト本人がその場に赴き何かをつくるという在り方が



生まれた。この場合の美術は、その場に合わせたアーティストが作品を制作し、その空間を体験することが鑑賞となる。また、アーティストがその場に作品を設置するときに、空間の場所性が制作の取っかかりとなることがある。場所性のようなものを美術が持ち始めたときに、展示空間に個性を持たせることが考えられるようになった。例えば磯崎は、場所性や個性を持った展示空間を突き詰めた結果、インスタレーションのアーティストと共に一つの作品のための美術館をつくり上げた。

【建築例】フランクフルト近代美術館、豊田市美術館、青森県立美術館、奈義町現代美術館、豊島美術館、十和田市現代美術館

磯崎の考えを延長させた第三世代のもう一つの在り方として、美術館でない建築物のリノベーションが挙げられる。例えば駅舎をもとにした美術館では、駅舎としての歴史性や場所性が個性となり、美術作品との関係性が生まれることになる。

【建築例】オルセー美術館、ハンブルガー・バーンホフ現代美術館、テート・モダン、プンタ・デラ・ドガーナ、弘前れんが倉庫美術館、アーツ千代田 3331

#### (4) 美術館における創造活動

1970年代から美術館でものづくりをするワークショップが台頭した。美術館における教育普及のために、作品を鑑賞するだけでなく、創造的な活動ができる場がつくられるようになった。また、作家にとって場所性に意味が生まれてきたときにアーティスト・イン・レジデンスという取り組みが生まれた。

【建築例】国際芸術センター青森

### 5 第四世代の美術館

新しい美術館の可能性として唱えたのが第四世代の美術館である。第四世代では、鑑賞者が作品と関係を持つパフォーマンスやアートプロジェクト、芸術祭などが行われるようになる。参加する人がいて初めて成立する作品が増える中で、これからの美術館は一時的な鑑賞の場ではなく、長時間滞在できる場所になる必要があるのではないかと考えた。

東京都美術館の展示室では、床はカーペットが敷かれ、壁は穴の空いた有孔板が使われており、「もの」としての美術作品の展示に向いているとは言い難い仕様となっている。しかし、TURN フェス2において《みんなの楽屋》（富塚絵美と協働）と題した作品を発表した際には、居心地のよい場所として活用することができた。

このように最近の美術館では、ホワイトキューブといった「もの」のための場所でも、従来のワークショップルームともまた違う、人がそこで活動することを前提とした「こと」のための場所の在り方が生まれてきている。このように、アーティストも含め、人がいることを受け入れる美術館としての在り方が第四世代といえるのではないだろうか。

### 6 八戸市美術館の取り組み

八戸市は既に「はっち」、「マチニワ」などの文化施設が存在し、八戸工業大学のアートプロジェクトなど文化活動も盛んである。そのため、八戸市民であれば新しい第四世代の美術館を使いこなすのではないかと期待している。

八戸市美術館は様々な世代の展示室が揃っているとも見て取れる。第二世代はホワイトキューブ、第三世代はブラックキューブ、第四世代はジャイアントルームといったように、建築的には各世代の展示室を自由に行き来できるような提案になっている。

現在の八戸市美術館は「もの」を見せる展覧会と第四世代的ともいえる「こと」を起こすプロジェクトの二本柱で活動している。国際博物館会議（ICOM）は博物館の再定義を行う予定であり、その中では地域社会との関わりについて言及されている。世界的にも美術館・博物館の在り方は変わってきている中で、八戸市美術館は今現在の在り方に近いことをやっていきたいと考えている。美術をきっかけに地域の様々な人が集まり、自分たちなりの答えを探したり、ものやことをつくる場所として活用できるよう運営していきたい。

## 部 会 の 動 き

美術工芸部会

1. 5月17日（火） 総 会  
○会場：青森西高等学校（青森市）
  - （1）令和3年度 庶務報告
  - （2）監査報告
  - （3）令和3年度 決算報告
  - （4）役員改選
  - （5）令和4年度 事業計画（案）審議
  - （6）令和4年度 予算（案）審議
2. 5月19日（木） 事務局長会議  
○会場：青森県総合社会教育センター（青森市）  
出席：宮本（事務局・八戸工業）
3. 8月17日（水）～18日（木） 総会・研究大会  
○会場：八戸市美術館（八戸市）
  - ・総会 令和5年度研究大会計画書（案）審議
  - ・研究大会 研究テーマ『人とまちを育む、みんなの美術館 ～美術教育に今できること～』
    - 実践発表1 「美術教育における掲示板の可能性」  
得丸 文野（県立八戸北高等学校 教諭）
    - 実践発表2 「描かれたものから読み取る美術鑑賞」  
三村 紗瑛子（県立十和田工業高等学校 臨時講師）
    - 報 告 1 「令和4年度高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会  
芸術（美術、工芸）部会 報告」  
坂本 憲史（県立弘前工業高等学校 教諭）
    - 報 告 2 「八戸市美術館『学校連携プロジェクト』活動報告」  
県南地区会員
    - 八戸市美術館 施設紹介・見学  
八戸市美術館 学芸員
    - 講 演 「第四世代の美術館 八戸市美術館のとりくみ」  
佐藤 慎也 氏（八戸市美術館 館長）
- ・参加者 部会員16名
4. 8月25日（木）～8月26日（金）  
第59回全国高等学校美術、工芸教育研究大会（2022群馬大会）  
○大会テーマ 「美のいと ～つむぐ・むすぶ・つなぐで考える美術、工芸教育～」  
○オンライン開催（一部対面開催）
5. 8月～9月 研究紀要原稿の校正と編集  
担当：益山（青森東）
6. 1月 「授業実践・教育課程」についての状況実態調査  
担当：宮本（事務局・八戸工業）
7. 3月 会計監査  
担当：三村（十和田工業）

# 研 究 テ ー マ

| 紀<br>要<br>(集) | 年<br>度 | 研 究 テ ー マ                         | 会 場                   | 会員数<br>(一・二<br>希望計) | 大 会<br>参加数 | 大会発<br>表者数 |
|---------------|--------|-----------------------------------|-----------------------|---------------------|------------|------------|
| 48            | 15     | ○美術工芸教育の新たな理念を求めて                 | ゆーさ浅虫<br>帰帆荘          | 34                  | 21         | 2          |
| 49            | 16     | ○美術工芸教育の新たな理念を求めて                 | 津軽伝承工芸館<br>旅の宿 齊川     | 37                  | 23         | 2          |
| 50            | 17     | ○豊かな情操を育むために                      | 八戸北高校<br>ガラス工房スターブリッジ | 34                  | 21         | 1          |
| 51            | 18     | ○豊かな情操を育むために                      | 青森戸山高校<br>ゆーさ浅虫       | 31                  | 23         | 2          |
| 52            | 19     | ○豊かな情操を育てるために                     | 弘前市伝統産業会館<br>弘前市観光館   | 30                  | 22         | 0          |
| 53            | 20     | ○豊かな情操を育てるために                     | 十和田市現代美術館             | 31                  | 21         | 1          |
| 54            | 21     | ○豊かな情操を育むために                      | 青森戸山高校                | 30                  | 21         | 1          |
| 55            | 22     | ○豊かな情操を育むために                      | 黒石商業高校                | 32                  | 20         | 1          |
| 56            | 23     | ○豊かな情操を育むために                      | 八戸ポータルミュージアムはっち       | 29                  | 18         | 2          |
| 57            | 24     | ○豊かな情操を育むために                      | 青森戸山高校<br>国際芸術センター青森  | 28                  | 22         | 2          |
| 58            | 25     | ○豊かな情操を育むために                      | 弘前実業高校                | 30                  | 22         | 2          |
| 59            | 26     | ○豊かな情操を育むために                      | 八戸高校                  | 31                  | 18         | 1          |
| 60            | 27     | ○豊かな情操を育むために                      | 弘前工業高校                | 27                  | 16         | 3          |
| 61            | 28     | ○豊かな情操を育むために                      | 八戸高校                  | 27                  | 15         | 2          |
| 62            | 29     | ○豊かな情操を育むために                      | 青森県総合社会教育<br>センター     | 29                  | 20         | 2          |
| 63            | 30     | ○美術、工芸の教科性を確立するために<br>～感覚を開く授業とは～ | 弘前市立観光館               | 28                  | 17         | 3          |
| 64            | R 1    | ○美術教育と美術館教育について                   | 八戸高校                  | 28                  | 17         | 3          |
| -             | 2      | (新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)            |                       | 30                  |            |            |
| 65            | 3      | ○造形的な見方・考え方を深める授業とは               | 弘前市立観光館               | 29                  | 17         | 2          |
| 66            | 4      | ○人とまちを育む、みんなの美術館<br>～美術教育に今できること～ | 八戸市美術館                | 29                  | 16         | 2          |

令和4年度 美術工芸部会